

7月3日～21日

日本で唯一の錦絵師 木下大門さんの相撲錦絵展が開催

大門さんの作品の数々



町出身の木下大門さんの相撲錦絵展が、7月3日～21日まで、弟子屈郵便局(藤原将男局長)ロビーで開催されました。

木下さんは、日本相撲協会の許可を得て、大相撲錦絵を描いており、元横綱・大鵬の孫である王鵬の化粧まわしの図柄を担当されました。絵番付や絵葉書など多くの作品が展示されており、利用者の目を楽しませていました。

カメラスケッチ
広報マンが
行く!!

このページは皆さんからの情報で作られています。どのような情報でもすくにつけてください。

まちづくり政策課政策調整係 ☎482-2913 (調査通)

7月6日

弟子屈の魅力を全国へ 日本郵便(株)がオリジナルフレーム切手を贈呈

寄附されたフレーム切手を手に



日本郵便(株)北海道支社が発売したオリジナルフレーム切手「絶景～カルデラの記憶～」(弟子屈町120年一)が7月6日、町と一般社団法人摩周湖観光協会(渡辺隆幸会長)に贈呈されました。弟子屈町に「弟子屈外一村戸長役場」が設置されてから今年で120年を迎えることを記念して作成されたもので、作成部数は500シート。切手に使用されている写真は、第12回弟子屈フォトコンテストで入賞した作品で構成されています。釧路地区連絡会統括局長佐藤太一(釧路東郵便局長)は「これから弟子屈町の観光が面白くなっていく。この切手をそのきっかけづくりにしてほしい」と話していました。

7月13日

火について学ぶ ファイヤー学習を実施

必死に火をこし



北海道LPガス協会釧路支部(平山晴章支部長)の皆さんが7月11日、弟子屈小学校(渥美清孝校長)5年生にファイヤー学習を行いました。人間と火との関わりなど理解を深めてもらおうと毎年実施しているもので、同支部弟子屈分会の青木浩二会長など約10人が来校し、LPガスについて説明しました。また、児童は火おこし体験にも真剣に取り組んでいました。

7月6日

ご結婚おめでとうございます! 町農業後継者結婚祝金贈呈式を挙げる

若い夫婦の前途を祝して



弟子屈町農業後継者結婚祝金贈呈式が7月6日、役場で行われました。お祝いを受け取ったのは、岡林輝さんと、真奈さんご夫婦と高橋翔平さん、こころさんご夫婦。贈呈式には、徳永町長、町農業委員会塩沢稔宏会長、摩周湖農業協同組合望月専務が出席し、ご夫婦には祝い金や記念品などが贈呈され、徳永町長より若い夫婦の前途を祝しお祝いの言葉が贈られました。

7月11日

釧路川を豊かに 釧路・リバープロテクション・21の会がヤマベを放流

ヤマベの放流の様子を肉眼見たら



釧路・リバープロテクション・21の会(川村利明会長)によるヤマベの放流が7月11日、釧路川ふれあい広場で行われました。魚類資源の回復のためにやっているもので、釧路開発建設部釧路河川事務所(菅野法之所長)や町、会員など関係者30人が参加。また、こども園まじゅう(鈴木幸楽園長)の年長29人も招待され、ヤマベの放流とニジマスふれあいを体験しました。

大いに盛り上がった 大イベント

摩周の里 夏まつり



吹奏楽による演奏



1位を目指して!



15日は、今年で25回目になる夏まつり恒例行事の摩周玉入れ選手権大会が行われ一般、子供、自治会の計23チームが参加し各部で白熱した戦いとなり、大いに盛り上がりました。

16日は、今年で25回目になる夏まつり恒例行事の摩周の里 夏まつり(同実行委員会(近江屋茂実行委員長)主催)が、7月15日、16日の二日間、釧路川ふれあい広場にて開催されました。あいにくの雨の中での開催となりましたが、今年は屋台も多くあり、来場した方々の笑顔がたくさん見られました。

15日は、缶けりや餅まき、カラオケなどのイベントのほか、自衛隊の音楽隊や町内小・中学校による吹奏楽の演奏、川湯ダンスクラブ、I&Mバトントスタジオによる発表、同日に学校祭を開催した弟子屈高校の生徒による各学年のアトラクション披露などが行われました。



雨の中でも華麗な演技を披露



恒例行事!玉入れ!

町の話題



CloseUp Topics

学習成果を活かして

川湯中学校(松永達郎校長)が、7月15日に全学年による「総合的な学習発表会」発表会を行いました。



地質・水質調査結果の発表



旅行プランの発表



発表会全体の様子

ふるさと調査学習では、1年生が3グループに分かれて硫黄山周辺の「地質調査・水質調査結果」をわかりやすくとりまとめている。グループそれぞれが共通して「川湯の生活は硫黄山が大きく影響している」ことを発表していました。

地域調査学習では、2・3年生が4グループに分かれて「てしかが再発見」(弟子屈町わくわく観光プラン)をテーマに、修学旅行中に新千歳空港で行った観光客へのインタビューをもとに、訪日外国人視点の「インバウンド向け観光プラン」として、町内の体験施設を巡る2泊3日のプランを提案しました。このほかにも、「ペア向け観光プラン」や「一人旅向け観光プラン」、「ファミリー向け旅行プラン」をそれぞれの視点で検討し、自然やグルメを存分に満喫してもらうための具体案を提案しました。

この修学旅行中に行われる地域学習調査は、ふるさとの新しいまちづくりについて考え、ふるさとをの良さを見つける「ふるさと教育」として平成18年から続いているものです。

保護者をはじめ、地域の観光関係者などが参観し、こどもたちの学習成果に耳を傾けていました。